



さとやま 2024年 春号 (通巻166号)

■発行 特定非営利活動法人うしく里山の会
〒300-1212 茨城県牛久市結束町489-1
tel 029-873-8552 fax029-873-8552

■事務局 牛久自然観察の森内
tel 029-874-6600
<http://ushiku-satoyama.org>
■編集 木谷昌史

さとやま ～春号～ No.166

特定非営利活動法人うしく里山の会 広報誌

1. 表紙 (アズマヒキガエルの卵塊)
- 2-3 お知らせ
- 4-5 プロジェクト活動報告
6. 裏表紙 (カキドオシ)

雑木林応援隊
「炭焼き活動報告」

橋本 久儀

結束町みどりの保全区
「エコアップ」作戦参加者募集のお知らせ

牛久自然観察の森に隣接する牛久市結束町の「みどりの保全区」で行っている森林維持管理作業「エコアップ作戦」では、地域の皆さんの協力のもと、下草刈りや除間伐、風倒木の処理等を行っています。

冬期は観察の森の第一駐車場向かいに位置する保全区内のスギ林において落ち枝拾い、そして隣接する雑木林のアズマネザサの伐採作業を行いました。作業後は見通しが良くなり一層景観が良くなったように感じます。定期的に行っている林分の作業が一周したこともあり、この春からは勢いを増した孟宗竹の伐採を中心に作業を行っています。

5月～7月は下記の通り3回の実施を予定しております。雑木林の景観維持へのご協力を引き続き宜しくお願いいたします。

活動日：5月23日（木）6月27日（木）、7月25日（木）

時間：9時30分～12時

集合場所：ネイチャーセンター 横の倉庫前

参加希望の方は：活動日の1週間前までに事務局までご連絡ください。

活動の様子



勢力を広げる孟宗竹の林分
(下草刈りを行い伐倒場所を確保する)



作業後の様子
(竹の伐採は次回の活動に持ち越し。継続して作業を実施中)

2024年は正月に能登半島地震、2日に羽田空港の航空機衝突事故と衝撃的な出来事で始まったが、雑木林応援隊は今年も安全に留意し、里山保全に貢献すべく活動を開始した。

(1) 1月の活動

1月7日、今年も安全に活動が行えることを祈念し、昨年飾った牛蒡注連（ゴボウじめ）に向かって祝詞を上げ、第1回目の活動を開始した。この日は小屋の修理、周辺の清掃、道具の点検などを行った。

第2回目は、あいにくの大雨で活動は中止となった。

(2) 2月の活動

2月に入り暖かい日が続いたが、第1回目の活動はまたもや雨で中止となった。

第2回目は、梅林の下草刈りとムジナの里で竹林（孟宗竹）の間伐を行った。間伐した竹の主要部分は炭焼き用として使うため約2.4mに切断し、切り落とした枝、先端の端材はシュレダーで細かく切断し、竹林に戻した。間伐後はすっきりした様子となっている。



間伐後の竹林



切り出した竹材の積み込み

間伐の効果かムジナの里では、春に多数の筍が収穫できる。また畑ではフキノトウが出ており、いただいて帰って天ぷらにして、少し苦みの味を楽しんだ。

(3) 3月の活動

第1回目はムジナの里で切残した竹材の枝打ち、切断、運び出しを行い、炭焼き小屋の横に持ち帰った。これを炭焼き用に約40cmに切断し、束ねて保管する。

第2回目の活動は、最初に昨年末に炭焼きを行った炭材を炭窯から取り出したが、今回の炭材もなかなかよく出来ていた。次に新たに用意した竹材を炭窯に投入し、火入れを行った。竹材は約1日半で焼き上がる。



出来た竹炭は各自持ち帰る 炭焼き用材料の制作

り、吸湿材、室内飾り、土壌改良材などとして使用している。個人的には、着火しやすく燃焼時間が適切で、



出来上がった竹炭

焼き芋を作るのに適していると感じる。また余分な竹炭は来園された方に無料で差し上げている。



焼いた竹炭を来場者にプレゼント

7月までの活動予定日

5月19日（日）、6月2日（日）、16日（日）

7月7日（日）、21日（日）

雑木林応援隊では、観察の森の一部を整備して、畑の利用。近隣の荒廃林の保全整備を通して、里山の利用方法や技術の習得、多様性植物の復活などを行なっています。興味のある方は活動日にお越し下さい、体験参加歓迎です。

活動日：毎月第1、3日曜日（9：00～15：00）

集合場所：牛久自然観察の森 梅林横の炭小屋

事務局からのお知らせ

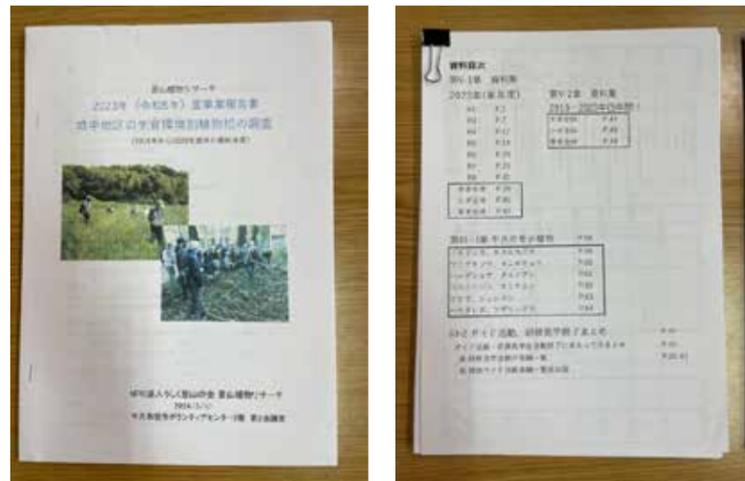
第20回通常総会議案書送付のお知らせ

事務局より第20回通常総会の議案書を郵送させていただきました。今年度は5月20日（月）9時から牛久自然観察の森ネイチャーセンターレクチャー室での開催を予定しております。今年度も同封の出欠確認はがき内に「書面表決」のチェック欄を設けてございますのでこちらも適宜ご活用下さい。

大変お手数をおかけいたしますが 総会資料をご確認の上、同封いたしました返信ハガキに総会への出欠を記載いただき返送していただくようお願いいたします。

事務局にて閲覧いただけます。

冬号にて里山植物リサーチ秋山さんから報告のありました「城中地区の生育環境別植物相の調査報告書（令和5年度の事業報告書）」及び城中の散策マップが完成し、事務局にて閲覧できるようになりました。ご興味のある方は是非この機会にご覧ください。散策マップについては配布も行なっております。



2023年（令和5年）度事業報告書
城中地区の生育環境別植物相の調査報告書



城中植物探索周遊 A3 折り畳みマップ

牛久自然観察の森指定管理者 ネイチャーセンター前ビオトープ管理作業報告

木谷 昌史

牛久自然観察の森のネイチャーセンター前にあるビオトープでは、牛久自然観察の森を訪れる人が水辺やそこに暮らす生きものに興味を持ってもらおうと維持管理を行なっています。

年間を通してクロメダカやタナゴが生息している他、茨城県の絶滅危惧Ⅱ類に指定されているコオホネ、トチカガミも生えています。また季節限定ではありますが、夏の終わりから6月にかけてはクロスジギンヤンマのヤゴが見られ、3月はアズマヒキガエルが産卵に訪れます。（オタマジャクシがゆらゆらと泳ぐようになると小さい子供達が足を止めていきます。）その後、ヤマカガシがオタマジャクシを狙いにやってきたかと思うと、5月過ぎから雨のたびにトウキョウダルマガエル、時にはヌマガエルがやってくることもあります。



アズマヒキガエルの卵塊

今年の3月は珍しくニホンアカガエルが産卵にやってきました。ニホンアカガエルが生息するためには、成体が生息する林と冬場に水のある産卵地（浅い止水域）、その二つの領域がなだらかに連続している地形などが必要ですが、近年はそういった環境が少なくなってきていて、生息が確認できる場所も珍しくなっているそうです。ここ数年、園内での産卵も見られなかったのですが、園内での絶滅を心配していたのですが今年はネイチャーセンター前のビオトープと園内の池にそれぞれ1卵塊ずつあったので、また来年から産卵が続くことを期待しています。

落ち葉を定期的に取り除き水位を維持しながら来園者に親しまれる水辺を管理していきたいと思えます。



ニホンアカガエルの卵塊



コオホネと新芽を展開するトチカガミ



池周辺に生えるオドリコソウの花